

3番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。通告に従い、山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

始める前に、2つのことを伝えたいと思います。

このたび、山内中学校駅伝部が県大会で初優勝をおさめ、全国大会出場の切符を獲得しました。出場に当たって、遠征費の資金づくりにPTA、学校の先生方、市民の皆様の協力を得て、無事準備をすることができました。山内中学校に通う子供の保護者として感謝申し上げます。また、全国大会は今週15日になっております。応援のほどよろしくお願ひいたします。

もう1つありますが、これは本当に悲しい事件でありました。山内町の宮元さんが、本当にあってはならないことでありました。本当に心より御冥福をお祈りいたします。私たち議員も、御家族のことを思うと、何か御家族の力にと思う気持ちで、射殺事件の真相解明と暴力行為の根絶を求める署名運動をさせていただきました。本当に二度とあってはならないことです。市民が一致団結して安心・安全な平和な社会づくりを目指していかなければと思っております。私も頑張っていきたいと思っております。

今回、私の一般質問は、障害者福祉に絞らせていただきました。これもある事件によって、私もぜひ伝えておかなければいけないということを強く思いました、今回一本に絞らせていただきました。

昨日13番議員のほうからも出ておりましたが、安永健太さんの突然の死亡ということで声明文が出されました。佐賀県の県内の授産施設などで働く障害者は1,200人とも言われています。地域の中で生活する障害者が近年急激にふえていく傾向は、全国はもとより佐賀県も同じであります。

そのような中で、佐賀県授産施設協議会は9月25日に、帰宅途中、安永健太さんが想像もできない状況の中で亡くなったことを知り、悲しみと驚きを隠すことはできません。今回の件で、まず私たちが感じたことは、人ごとではない。どこの施設にもたくさんの安永健太さんがいるということです。安永さんは、毎日元気にバスと自転車を使い授産施設に通い、懸命に働き多くの夢を持ち、スポーツが大好きな青年でした。数年前は、アメリカで開催されたスペシャルオリンピックに代表として出場するなど、家族や周囲の人からも期待されていた若者だったのです。健康そのものの安永さんが、なぜ25歳という若さで人生を終わらなければいけなかったのか。いつもの道をいつもと同じように自転車で自宅に帰っていた知的障害を持つ青年が、なぜ手を後ろに回され手錠をかけられ、5人の警察官から歩道で取り押さえられたまま、意識をなくし亡くなったのか。私たちは、警察官に知的障害という特性を持った人たちが地域で生活しているという認識が少しでもあれば、このような悲惨な事件は起こらなかったと信じます。障害を持つ人の人権は、いまだ社会の中では粗末に扱われる事が繰り返されています。今回は、命に関する人権の根幹に触れる問題です。授産施設協議

会は、去る10月11日の総会におきまして、今後二度とこのようなことが起きないようにするためにも、安永健太さんの死についての真相を明らかにすることが重要だと確認いたしました。私たちは、常に障害がある人たちの人権を守る立場にあり、人権が守られる地域づくりに努力していくものであります。歩行や行動が少し異なっていても、麻薬中毒などと誤った見方をされない社会であることを願っているのです。だからこそ、私たちは県民の皆様に声明を出すことにしました。「障害がある人の命と人権を守るために、安永健太さんの死についての真相を明らかにするために、一人でも多くの方々の声を出してくださることを願いたいと思います。障害がある人の命と人間としての権利を守っていくために、ともに考え合ってくださることを呼びかけます」という声明文が出されました。本当に健太さんは、スペシャルオリンピックでも100メートル4位、200メートル5位、400メートルリレーでは銀メダルを獲得し、また、この健太さんの夢は警察官になることだったというのです。また、パトカーや白バイに憧れ、警察官と一緒に写った写真をかばんに入れていつも持ち歩いていましたという御家族の声です。

私も、自分の子供も障害を持ち、あなたのお子さんは障害ですよと言われて25年がたちました。そして本当に、ここで市長にも昨日言っていたように、この方たちを一番いいところに、活動しやすいところにというふうに、本当に行政挙げて障害者の方たちを何とかという形でセンターも開設させていただきました。本当にう何か、25年間自分の子供を授かって活動をしてきて、ああ、こんな時代が来てよかったですというふうに思っていたやさきにこういう事件です。まだまだ皆さんに理解をしていただかないといけないなというふうに思っております。

また、平成18年4月から施行された障害者自立支援法というのは、本当に地域生活移行ということで、就労支援などでどんどん地域で仕事をしていきましょうというふうに障害者の方を外に出していくという法でもあります。しかし、どうでしょうか。皆さんの周りにも、本当に知的障害とか、そういう形でなくても、身体障害者の方、精神障害者の方、また認知症とか、いろいろなあらゆる意味で障害を抱えた方がいらっしゃると思うんですが、本当に皆さんの理解がなければ出していくことができません。そして、家族とか親御さんもかなりの努力をして、勇気を出して一步踏み出しているわけなんです。しかし、こういう悲しい事件がありました。でも、警察官の方も、発砲事件じゃないですが、凶悪な事件があるので、本当にそういう職務として、そういう行動を見れば、ああ、これはという本当に危険な状態を感じて、そういう行動に出られたことと私も思います。だから、だれが悪いとか、これは何も問題はなかったとか、そういう責め合うことではなくて、本当に人権として皆さんのが住みやすい社会に近づけていかなくてはいけないんじゃないかなという思いで、今回この事件を取り上げさせていただきました。

それでは、この事件を通して、武雄市としてどうやったら障害者の方を地域の社会の人

理解していただけるか、行政にできることはどういうことかということでお聞きしたいと思います。また、そういう理解を深めるために力を入れているところはどういうところかということでお尋ねしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

おはようございます。昨日もお話を申し上げたと思いますけれども、この安永健太君の事件につきましては、地域社会で暮らすとき、社会は何をなすべきかという教訓を与えた事件だと思っております。

昨日も申し上げましたけれども、障害を持つ方々が地域で暮らすノーマライゼーションの社会を築くには、障害者に対する正しい理解を社会全体が共通して持つことが必要であると思っております。

幼少期よりの人権教育、心のバリアフリーの人権教育は不可欠だと思っているところでございます。地域で障害者の方と共生していくということは、まさに市民協働で行うことだと思っております。障害者団体及び地域各機関、団体その他、お話を持つ機会をつくれないかということで、ともに進めたいと思っております。

また、障害者自立支援法の推進につきましては、相談支援センターを中心にして推進していきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

事件に当たって、きのう市長も答弁いただきましたけど、またきょうこういうことで提案したいと思いますので、市長の御意見をお聞かせください。

今、武雄市としては、こういう事件をとらえてどのようにしていきたいというふうなことでお願ひします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私自身は、安永君事件は、サガテレビが「かちかちワイド」でしたかね、放映をされていて、これ3回か4回にわたって放映をされていて、お父さんが、先ほど議員から話がありましたけれども、陸上の練習をしている写真であるとか、あるいはグローブの遺品であるとか、本当にこういうことがあっていいのかなというふうに思いました。これは、とりも直さず、やはり先ほど部長から答弁があったように、我々がそういった方々への理解が足りなかつたから、共通した理解がなかつたからこういう事件が起きたというふうに思っておりますので、

まず言葉が適切かどうかは別にして、小さいころから心のバリアフリーの教育がぜひ必要だと。今、ユニバーサルデザイン、UD、これは何も施設とか道路だけじゃないわけですね。心のバリアフリー、UDの話し合いの場を、やっぱり小さいころから、特に、これはちょっと私が申し上げるのもいかがかという部分もありますけれども、教育の現場できちんと、例えば、道徳であったり総合学習いろいろあると思います。そういったところで、きちんとやっぱり教えるといった機会がつくれないのかなということは、また教育長ともいろいろお話をさせていただければというふうに思っております。

いずれにしても、やっぱりこれは大人だけそういう気持ちを持つということではなくて、小さいころから、それがもう自然なんだ、普通なんだというふうに思っていただくような対応はぜひ進めていきたいというふうに思っております。

そういうことで、いろいろまた知恵を絞ってまいりたいと思いますので、またこれは議会の皆さんたちにもきちんと相談をさせていただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

1番の項目の中で、障害者自立支援法についての中で、私も3つほど提案させていただきたいと思っているんですが、世の中が本当に人として一番大切なものがどんどん欠けていろいろな事件が起こっているんですが、今回ちょっと何か警察官の方にも余裕があれば、違う見方ができる、命を落とすことまでいかなかつたんじゃないかなというふうに思うことで、小さいときからバリアフリーでと今市長が言われましたように、余りにも子供たちの周りにいろんな危害を加える連れ込みとかいろんな事件があったときに、防犯ベルとかを子供たちにまず持たせましたね。全部が持たせたわけじゃないんですけど、最近本当に子供たちに、人を見たら疑うように育ってしまわないかなというのをひとつ私はすごく心配したわけですね。ちょっともう何か違うだけでも、もう本当怖がらないといけないような今世の中ですね。だから、自分の子供も外に出していくて、ちょっと様子がおかしいと。あの人は変質者とか、いろんな形で見られそうなというふうに、やっぱり親の会とか障害者を持つ親たちは、そういう心配もするんですね。だから、本当に小さいときから学校では障害者と一緒に交流をしたりとか、いろんな形で進めてもらってますが、また一方では、そういう凶悪犯罪とかによって子供を守るために、防犯ベルとかを持たせて、人を見たら何か話をしたらいけないとか、そんな形のものを植え込ませているかなという問題点があるなというふうに社会的に思っています。しかし、そういうことをやっぱり乗り越えて、人とのコミュニケーションとか人と接することというのを乗り越えないと、どんなに民生委員さんの方とか、いろいろ補助員さんの方とか、子供たちに声をかけようとしても、子供たちは知らんぷりして、かけたらいけないとか、あとはまたひどいことに、最近は名札をかけている方だったら、私たちは

声をかけますよということで、名札をかけている人だけ子供に声をかけるという運動みたいなこともあっているわけですね。だから、もう本当にどこをどうしたらいいのかなという時代ではありますが、私がちょっと提案したいことは、うちの子供は伊万里養護学校というところを卒業しているんですが、やっぱり養護学校とかあるところは、地域の方の受け入れとか、そういうのが本当に整っているところがあるんですね。だから、養護学校の評議員会にも、駐在員さん、警察官さんが入っていたりとか、すごくサポートしているんですね。だから、こういう仕組みがあれば、今回のような事件がなかったかなというふうに思うんです。

1つ自立支援法からいいますと、就職を障害者にというふうに、地域にどんどん出ていきましょうというふうになっているんでしたら、武雄市役所としては、伊万里養護学校の近くにいまりの里という授産施設がありますが、そこが図書館の掃除を、その施設が請け負っております。本当にことしからスタートしましたが、市役所のほうからどうか施設の皆さん方でここの部分を掃除してくださいという契約をして、月何万円か、はっきり数字は把握しておりませんが、そういう形で仕事をいただいております。この効果が、やっぱり障害者の人が一生懸命時間をかけて、業者の人だったら1時間、2時間ですけど、一生懸命午前中かかってとか掃除していると、本当に散らかす人というか、汚す人が少なくなるし、ああ、こういう形で一生懸命仕事してあるんだなということが目につくこととか、あと多動とかいろんな形の人がいますので、やっぱり「きいきいきやあきやあ」言ったり、動いたりがあが言いながらも掃除をしたりと、目に触れることが多いわけです。だから、私は自立支援法といって、法だけ先に進んでいるから、じゃあ受け入れはどうかというときに、どうか市が率先してこういう場の提供ということを取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

それを、まず図書館では、図書館の掃除を委託しています。あと、民間のボランティアグループに福祉喫茶という形で、お食事ができるコーナーも提案されております。そういう面から見て、武雄市の受け入れはどのようなふうにお考えか、お伺いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、数字から申し上げたいと思います。

武雄市役所の障害者雇用率は2.03%、これは395人中の8人、2.03%、法定雇用率が2.0%ですので、その基準は満たしているというふうに　これで満足しているかどうかというのはちょっと別にしても、基準はクリアしている状況にあります。

それと、ここから先は私の私見ですけれども、基本的に、私は図書館、例えば、1個の図書館にすべて障害をお持ちの方が行うというのは、それはちょっとどうかなというのは、率直に思います。それよりも、民間の例えば企業の方々が、この法にのっとってふやした上で、

障害を持っていない方、持っている方と一緒に作業をすると。障害をお持ちの方は、先ほどおっしゃったように3時間かかるかもしれない。それと、障害を持たない方はもう30分で終わるかもしれない。私はそれが一緒にやることによって、お互いの理解が深まるんではないか、特に障害をお持ちの方へ対する理解が深まるんではないかというふうに思っておりますので、そういうことで、市でも積極的に職業体験の受け入れを図りたい。そして部長会議にこれは諮ってもらって、全市的な取り組みをするように今でもお願いをしておりますけれども、またお願いをしたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

市長の意向はよくわかりました。企業に子供たちが就職してというのは、なかなか難しいものがあるんですね。それは本当に、周りに理解をしていただくというところで、なかなか就労につながりません。それと、障害の種類にもよって、私が活動している団体は知的障害者ですが、そういう人たちは、なかなかそういう企業の中に入つて仕事が、実際このような不景気というか、経済状況が難しいときに、皆さんも考えてみてください。やっぱり公立が先なんですね。養護学校とか施設では何回も何回も自立支援法にのつって実習に出しますけど、本当に就労につながっているところはわずかですね。

それと、市長が395人中8人ということは、多分身体の方とか精神の方とか、そういう方たちが多いと思うんですね。だから、私は図書館の掃除とか、この庁舎内の掃除とか、100%じゃなくって、企業が100%今やっているんであれば、その20%を施設の団体にお任せするとか、そういう形で始めてもらうと、私はスムーズにやっていけるんじゃないかなというふうに思います。

また、もう1つの展開で、リサイクルセンターというのがあります。こういう私たち活動団体は、アルミ缶拾ったりとか、そういう形でまとめてお金にしたりとかいうことの作業が多くなるんですが、やっぱりあそこのリサイクルセンターを見たときに、1人の障害者がもう既に働いておられますが、あとはシルバー人材センターの方だと思います。そういうところに、もう少しでも働く場を提供していただくという形ができるんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

確かに、そうですね。私もこれは考えたつもりでいましたけれども、やはり指摘を受けて、まず公の部分から、「先ず隗より始めよ」ですけれども、そういう形で1割でも2割でも、まず市がそういう場を確保して、そこを障害をお持ちの団体にお願いをして、そこで、そ

ういった例えは清掃であるとか、いろんなことを行うというのが筋かなというふうに思いを改めました。これは、深い指摘をいただいたというふうに思っております。

ただ、私は1つお願いがあるのが、それを踏まえた上でございますけれども、基本的に例えば、さっき福祉カフェというお話が出ましたけれども、障害をお持ちの方、あるいはその関係者の方々が、収益をきちんと生むような仕掛けもあわせてつくっていただきたい。これは、例えば、これ何回か議会では申し上げましたけれども、赤坂にスワンカフェというのがあります。ここは、ヤマト運輸さんが、小倉会長さんが肝いりで始めたところで、私も行ったことは何回かありますけれども、障害をお持ちの方が実際にトレーを運んだり、注文を聞いたり、これは結構人気があります。もうつくられて、多分もう3年以上たっていると思いますけれども、いつ行ってもいっぱいです。そこで一回聞いてみたら、お給料どうなのと言ったら、結構もらっていると。幾らなのと言ったら、「それは企業秘密です」と言われましたけれども、そういうことで、非常に何と言うんですかね、その金銭的な面はちょっと別にしても、非常に和気あいあい、生きがいを持って顔にやっぱりにじみ出ているんですね。ですので、そういう機会をぜひつくる。それについては、我々も必要な支援はしていきたいと思います。障害をお持ちの方が、やっぱり所得が上がると。その喜びを感じていただくようなきっかけ、仕掛けづくりをしていきたい。例えて言うと、私は、例えば、支所にカフェがあつていいと思います。障害をお持ちの方がそういったことで、実際、物品はもう売っていますので、今手に入らないぐらいになっていると。聞くところによると、作業所を拡張してほしいというところまで話が来ておりますので、すごくいい方向に、流れになってきていると思いますので、ぜひそういう流れもしていきたいなと。だんだん力が入ってまいりましたけど、そのように考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に、次の質問のここまで入ってもらったような気がしますけど、本当に、これでいいというわけじゃないんです。これからさらにさらにというふうに、一度には本当にならないんですね。私たち活動団体も、こういうカフェが、そして工賃がたくさん上がればとか、今まで本当にボランティア、ボランティアですね。きのう市長が言られたように、日の当たらないところでしていても、勇気を出して言っていくのさえできなかつたわけですね、今までが。でも、本当にいろんな人が協力してくださったり、こうやって市長みたいな方がいらっしゃって、どんどん先に進んでくださる方が今つながっていって、本当いい形になってきていると思います。

私が提案したそういう形で、まず市役所のほうから、そういう形を進めていっていただきたいなというふうに思っております。

あと、そういう中で、ハローワークとかも、障害者の方たちの雇用がスムーズに行くようには、ジョブコーチとかトライアル雇用事業とかがありますので、そういうのをうまくかみ合わせて、就労が成功するような形を、市のほうから実践していっていただきたいなと思います。そういうところからまた、たくさん的人が目にるようにというか、見なれてくるというか、そういう形になると、こういう今回の事件とか、そういうことにも絶対ならないというふうに私は思いますし、あと、本当にやっぱりその人につかないといけないんですね。カフェとかもやってくださいって、伊万里の図書館のカフェだって、本当にやっと回るような形です。だれかが企業母体とか、だれかが後押ししてくれたりとか、つながっていかないと、なかなか運営というものは厳しいものがあります。

そして、たくさん的人が働きたいと思っていても、1人の人に大人が2人ぐらいついてやっと運営がなっているというふうな形もありますので、そういうところを含めて市長も考えていってほしいなというふうに思います。

あともう1つ、この受け入れに対して、伊万里養護学校の保護者会と活動団体の方が武雄市に対して要望書のようなものを出されたと思いますが、それは、子供たちが就労するに当たっての実習の場所と、就労の場として広げてほしいという要望が出ておりましたが、それに対して市長はどういうお答えでありますでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

議員御指摘がありましたように、伊万里養護学校PTAから要請は受けておりますので、市でも積極的に職場体験の受け入れをしたいと思っております。この際、部長会議にも図つて、市役所だけにとどまらず、全市的な取り組みができるようにお願いをしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

それではもう1つ、就労支援というところで、市長は企業誘致という形で大変動いておられます、ことし、佐賀の神埼に佐賀県としては初めての特例子会社としてスタートしました。障害者がそこに11人働くことができるようになりました。会社名はエフピコですね、愛パックとしての子会社ですが、私もそこに見学に行きましたが、本当に子供たち、障害を持った人たちが本当にスムーズに作業ができるような体制をとってもらえる母体があります。そこに完全就労型として、お給料も最低就労の賃金をいただいて、11人が働くことができてあります。これはもう古川知事の大きな働きもあったおかげだと思います。そして、エフピコという会社のもとで会社が始動し始めましたが、私は、こういう会社がどんどんふえ

ていってほしいなというふうに思います。そして、武雄市にも企業誘致として、ぜひこういう会社を呼んでくることができないかなというふうに思っておりますが、市長のお考えをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

幾つか話は来ておりますので、そういったことで、そういう既存の企業については、就労継続支援A型の工場、あるいは施設になるようにお話をていきたいというふうに思っておりますけど、ただ問題は、土地がないということなんですね。ですので、それはそれで制度的に、あるいは仕掛けをしつつ、そういった企業が、理解のある企業が一つでも多くなるよう、そして雇用がさらにふえるように働きかける努力はしていきたいと、かように考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に就労につなげていくというところにかなりの時間とか労力が必要ですが、企業母体がしっかりとしているところに支えてもらえるというのが一番ありがたいことかなというふうに思っておりますので、市長に今後そのような形で進めていってもらうことを期待しております。

あと、もう1つ、市としての受け入れの1つのパターンとして、伊万里のほうでは、市が委託するんですが、市の郵便物の配達業務というのを、あるNPOの事業が引き受けてやっております。これは特殊な許可をきちんととらないといけないですが、伊万里市のNPO「小麦の家」というところが、郵便配達事業を、伊万里市の事業を全部受けてやっております。そういう形で、進んでいるところは、市町村の格差じゃないんですけど、本当にどんどんこういう形で理解を深めておられますので、どうか樋渡市長も積極的な取り組みをしていただきたいなというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。

それでは、2番目に行きます。

共生ふれあいセンターについてお尋ねします。

市長にかわって自立支援法も始まりまして、ことし4月から山内支所に共生ふれあいセンターを開所していただくことができました。まずは一応私も資料、いろんな意見は聞いておりますが、これを開所するに当たっての今の問題点とか、スムーズな活用ができているのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

共生ふれあいセンターにつきましては、機能として相談、交流、情報、訓練をキーワードとして運営をしていくようにしております。相談につきましては、相談支援センターに相談員を10月より1名増員して、3名体制でやっております。障害に対するあらゆる相談を受け付けているところでございます。交流につきましては、障害者の方はもちろんのこと、市民の方、保護者間の交流ということで、集いの広場というのを設置しております。これも相談支援センターが担当してあるところでございます。

情報に関しましては、障害者に関する社会支援等の情報を一元管理して、福祉サービスの利用しやすい環境をつくるということで、これも相談支援センターが請け負っております。

それから、訓練ですけれども、日常生活の訓練や生産活動の場を地域活動支援センターの訓練により社会参加の促進を図るということで、地域活動支援センターが担当しているところでございます。また、共生ふれあいセンターにつきましては、相談員の事務所、相談室、自立支援スペース、集いの広場を設置しており、自立支援のスペースにつきましては、地域活動支援センターの若楠作業所、オアシスみふね及び武雄市手をつなぐ育成会に提供し、日常の訓練や生産活動、研修の場として活用しております。集いの広場は、障害者の方はもちろん、保護者一般の方たちが利用できるということで、活用を図りたいと思っております。また、1階のホールにつきましては、それぞれの地域活動センターのつくりました製品を展示し、即売も行っているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

済みません、相談支援センターは次の項目に上がっておりましたけど、共生ふれあいセンターということですが、本当にこれは開所して8ヶ月ですね。自立支援法による市町村の取り組みによって、どんどんセンターとか活動の場が準備されていくものと思いますが、武雄市としてはいち早くこういう形をとっていただいて、大変よかったですというふうに思っております。

意見を聞けば、これは本当に市内にいろんな作業所を持ってされている中に、やはり1つの団体、2つの団体とかしか入りませんので、そこが窓口として就労の準備ができるような場になっていけばいいなという声があります。そういうところで、身体障害者の作業所の若楠さんですが、本当に作業所ができてよかったですと言われております。でも、さらに工賃を上げていくには、やはりあそこはオフィス、事務所の形ですので、やはり作業所として木工関係とか、そういう形で自分たちは広げていきたいというお気持ちをお持ちであります。

そういう点で、やはりまずはスタートしてからいろんなところを見直していくべきだと思いますので、そういう支援も進んでいったらというふうに思いますが、いかがお考えでしょ

うか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

作業所の観点でお答えしてよろしいでしょうか。

〔3番「はい」〕

基本的に、私はまさかこんなことになるとは思っておりませんでした。私がびっくりしたのは、いいところを支所の皆さん、それで山内町民の皆さんとの深い御理解のもと、議会の皆さんとの深い御理解のもと提供させていただいているといったところで、果たして人が集まるのかなというのがあったんですね、それでも。しかし、開設して半年もたたないうちに、また拡張をしたいということが来ておりますので、これに対しては柔軟にやっぱり対応していくべきだというふうに思っております。

まず、働いている皆さんたちの意見が第一でありますので、そういったことで、支所機能として、あるいは作業所スペースとして何ができるかといったことを考えていきたいということで、ある意味うれしい誤算だなというふうに思っておりますので、これはいいきっかけづくりができたというふうに理解をしております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に、まずスタートして、さらにいいセンターになっていけばいいかなというふうに思っております。ちょうどこのセンターの隣に相談支援センターがあるから、本当にそこに相談に来て、自分も就労したいんだというお気持ちがあられて、まずはこういう授産施設の中から始めていくというのが一番ベストな状態なんですね。いきなり企業の中に、とても本人たちも入っていけないし、ここで作業をしている風景を見て、ああ、和気あいあいとされているなど、センターの人がたくさんついておられて、仕事がしやすいなというのが目に見えて、本当にこれはいい場所になっているなというふうに思っておりますので、今度はそういう方々の枠を、やっぱり受け入れていかないといけないという問題が出てくると思いますので、次の段階として、やはりそういう形を踏まえて対応をしていただくというが必要かと思っております。

また、オアシスみふねさんは精神のほうであります、やはりここも本当に来たいという方がふえておりますが、やはり作業的に指導者の中もありますが、工賃が1ヶ月千円とか1,500円ですね。だから、自分たちとしても工賃を上げる努力をしたいし、内職事とかあれば、やっぱり教えていただきたいし、提供していただきたいということを言っておられますので、ぜひ市の仕事ばかりじゃないですけど、そういうことがあれば、率先してこういうと

ころの施設に仕事を分けていただくという形をお願いしたいと思います。また、このオアシスみふねさんも、あそこのリサイクルセンターに一人でも仕事として出してあげれば、工賃が少し上がるのになということをおっしゃっておられますので、そういうことも踏まえてお願いしたいと思います。

今回、自立支援法と言って、本当に自立した生き方をするために、地域で生き生きと暮らすためにという制度であります。しかし、工賃とか、じゃあそれで生活ができるのかというと、本当変な話ですが、それはホームレスを迎えるしかないとか、それは自殺支援法だとか、本当にぎりぎりの生活しかできないような状態が浮かんできます。それは実際、オアシスみふねさんとか軽度の知的障害者というのは、基礎年金、福祉年金がやはり60千円ぐらいです。60千円ぐらいで就労できない人が、就労できて珍しいというか、本当に数ないです。就労できない人たちがこういう施設で、工賃が一月千円とか1,500円、いまりの里とか作業所は少し頑張って5千円とか10千円近くになったにしても、この金額からグループホームに入るとすれば、グループホーム代が、もう今は40千円から50千円です。そうすると自分がそこで生活していく費用は、わずか10千円とか、10千円にも満たないわけですね。というと、私たち活動団体は親亡き後はどうなるのかという形でいつも進めてきておりましたので、じゃあそういうときに自立できるのかというときに、今グループホームをお勧めしましょうとか、地域に仕事に行きましょうと言うけど、実際問題生活はできませんという答えになっております。

いろいろ住宅のこととかは、後からまた質問したいと思いますが、そういう今回自立支援法を進めておられるところで何が問題があるか。私たちのように親が健在で元気でいるところは、そこそこ子供は生きがいを持って、施設費用代が負担になりましたので、20千円ぐらいの施設費用を払って、工賃は5千円ぐらいしか入りません。それを差し引いて、さらに15千円手出しをして、その施設に行っているわけです。あと、交通費が5千円ほどまたかかります。そういう形の今自立支援法になっているということを、わかっていてほしいなというふうに思います。

しかし、やはりできるところしかやっていけませんので、やっぱり武雄市としてはこういう形で、皆さんで協力していきましょう。皆さんで支え合っていきましょうという形で、こういうセンターをつくっていただきましたので、さらにこれがいい形になっていくように願うものであります。オアシスみふねさんが仕事の提案をしておられますので、リサイクルセンターの件、あと業務として内職の仕事とかあったら、そういう形で提供していただきたいということと、あと地域住民の方が、本当に山内の方に御理解いただいて、農作業の場として近くの畑を提供していただきました。そういう形で、本当に私はいいふれあいセンターになっていると思いますので、ボランティアの方とか、みふねさんは金曜日にボランティアの方が入ってお手伝いをしていただいておりますので、さらに御理解いただいて、市民の方で

本当にいいセンターにつくり上げていっていただきたいなと思っております。

済みません、ちょっと長々なりましたが、みふねさんの提案で、リサイクルセンターの仕事と、あと内職仕事の提供とか、そういうことに市はどれくらい力が貸せるのかちょっとお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

市としましては、オアシスみふねさんの製品の販売促進ということで、市内の金融機関に提供品ですかね、そういう販売促進ということで一応行ってまいりました。それで、1つの金融機関から購入いただき、それなりの製品を納められておりますので、今後こういう活動も市のほうから積極的に図りたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

内職の件で具体例を申し上げたいというふうに思います。

私だけかもしれませんけれども、私のところによく寄せられるのは、これは観光客の皆さんからなんですかね、布草履が欲しいというお声はかなり寄せられております。布草履業界のことを調べてみたら、インターネットで幾らで売いよおかと。一足1,500円から1,800円で売いよんさるわけですね。たまげました。それでもやっぱり、すぐ品切れとかなっておるわけですね、いろんなホームページのサイトとかを見っていても。したがって、私は需要のあるところに、しかも値段が高く売れるのは、布草履はひとつ今チャンスだというふうに思っております。

これは資源の有効利用にもなるわけですね。どことは申し上げませんけれども、かなり古布を捨てられています。これは悪いと言っているわけじゃありません。これについては、捨てるにもコストがかかります。それをきちんと、これは市の環境課の責任になるかもしれませんけれども、きちんとそれを我々のほうで受け入れて、それで布をつくっていく。そのコストはかかるんわけですね。しかもこれは、すぐつくらなければならないというものではありませんので、これひとつやっぱり布草履にちょっと着眼して着目をして、本当に先ほど申し上げたように、働いている方々が少しでもやっぱり所得が上がるよう、我々もそういうふうに流れをつくっていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

いい提案をありがとうございます。本当に作業をしている人たちだけでは、なかなかいい

案が浮かばなかったりするので、本当に観光アピールのグッズというか、そういうものとつながって、こういうのを生産して売れていいかなというふうに思いますし、私も長崎のほうの授産施設で、これだけ布草履を見事使っている「福草履」と書いて、お土産にも買つてしまったりしたんですが、すばらしいソーイングの会社から端切れをいただき、カラフルな布草履ができて、授産施設の利益になっているというところに私も行っておりまし、もしそういう形で、お力いただける方、教えていただける方があったら、また一つの契機になるんじゃないかなというふうに私も思いました。ありがとうございます。

あと、手をつなぐ育成会としては、いい場所をいただいて、和室の部屋ではあります。本当に北方の方とか武雄の方は、ちょっと遠くてなかなか出にくいという問題点もあったり、あと夜がなかなか自由にも使えないということがあります、やはり自分たちがひとつチャレンジするための交流の場としてはいい場所になっておりますので、さらにそこの有効活用をしていくように努めたいと思いますし、障害者だけというふうに枠を決めないで、武雄とか北方とか、子育てのセンターとかいろんな場所がでてありますので、そこも障害者の人たちが活動して場所がいるんだったらつながって、一緒に使えるという枠を超えたところで、施設が利用できるような形にもしていかないといけないかなというふうに思っております。それは、私たち手をつなぐ育成会があそこに1つ部屋をもらっていても、使っていないときがあるわけですね。だから、そういうときもやっぱり使いたい団体が有効活用として使えるような形のほうがいいんじゃないかなというのも、ちょっと提案したいなというふうに思います。

そしたら、次の3番目になりますが、武雄市相談支援センターについてお尋ねします。

これは、もう國井部長がお答えいただいたように、障害者として一番必要なのは相談業務だったわけですね。今までが福祉課窓口では担当の方が次々にかわられたりとか、専門的に置いていただきたいなと思っていても、なかなかそれが実現しなかったわけですが、今回自立支援法になりまして、相談支援センターのスペシャリストというか、専門職がそこに窓口に入るという形で、いいスタートだったし、実質的に相談件数がふえて、10月から1名増員で3名というふうになりました。相談件数が多いということで、相談の内容から一番何が求められているかという問題点を相談支援センターの方にちょっとお尋ねしました。相談内容の中で、やはり就労の相談はもちろんです。今まで言った中で、随分市長も前向きな答弁がありましたね、これは省かせていただきますが、住宅の問題ですね。本当に私も思うんですが、公営住宅の枠を、1枠とか2枠ですね、これは障害者に優先しますというか、優遇しますというふうな形があれば、グループホームとして枠をとるもよし、別にグループホームではなく、ここを障害者優先しますという形であれば入りやすいんではないかというふうに思います。なかなか工賃の面から考えたら、民間のアパートを借りるにはとてもやっていけないわけですね。障害者として入る場合は、公営住宅が5千円ぐらいで入れるそうですので、

優遇してほしいんですが、全くあかないです。入れない状態にあるわけですね。だから何とか枠を決めていただいて、公営住宅を優遇していただくという方法はできないかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

現状からちょっと申し上げたいと思います。

障害をお持ちの方が市営住宅に入居希望された場合、直ちに入居できるという支援策は残念ながらありません。しかし、特例措置として、1、申し込み、受付時に通常は同居人が必要ですが、単身者でも申し込みができること。2、入居収入基準が通常の200千円以下が268千円に引き上げられること。3、抽選会のとき通常1回の抽せんが2回できること。4、現に入居されている方で、身体の機能上の制限を受けることにより、住みかえが適切であると認めた場合には、優先的にそこに住まい続けることという、4つの特例措置があります。しかし、先ほどありましたように、枠を設けるということについては、基本的に市がそういうふうに積極的にやっているという意気込みを示すことにもなると。そういう1つのアピールにもなりますし、安心してそこに住んでいただけます。そこが、1つの先ほどおっしゃったように、例えば、グループホーム機能であったりとか、そこが新たな意味での集いの場であるということは、深く理解をしておりますので、優先の方向で考えたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

私もちょっと資料をとる時間がなかったので、もう既に市町村でそういう取り組みをされているところがあるそうです。1階部分は全部グループホームにされた公営住宅があって、ヘルパーさんが部屋ごとに世話をして入ったりするような機能している公営住宅があるので、ぜひ進めていただきたいなというふうに思います。

それも、今度、久保田住宅などは、新しい規格の住宅ですが、今後見直しがある場合は、やはりすべてがバリアフリーになった施設を1階に優先して枠をとっていただくという形がいいんじゃないかなというふうに思います。

また、ここで出た支援センターの問題ですが、やはり北方のほうに支援センターがありますので、そこまで行きたくても、なかなか公共バスとか電車とか、そういうふうなのが不便で、やはり循環バスとか、どうしてもそういう形が必要だなというふうな案も出ております。今、バスのことではいろんな形で見直しが進んでいると思いますが、ぜひ相談業務とか、こういうセンターに出掛けてくるという場合には、やはり市が循環バスを出すなり、行きやす

い形をとっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

國井くらし部長〔登壇〕

バス等については、今のところ考えは持ち合わせておりませんけれども、相談員につきましては、自宅のほうに訪問するということはやぶさかではありませんし、また、訪問を受託して、その障害者の生活をできるところでございますので、相談に率先して出かけたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

そこにやはり出ていきたくないというか、出てこれない方は訪問かそうでしょうけど、やっぱり自分でチャレンジしたり一歩踏み出してみようかなという人のために、私はそういう機能を果たすバスがあればいいなというふうに思います。それは、10月とか視察研修に行って、各市役所に、本当に市のアピールをした、大きないです。ボンゴみたいな、それに支援をアピールしたかわいい絵がかかれた循環バスが走っていたんですね。だから、ぜひ武雄市も、そういう形で支所を回るというか、本庁から支所を回るような、そういう循環バスができたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

あともう1つですが、今山内の空き庁舎の活用で話し合いが進んでおりますが、それと同時に、ここを見直しもスタートして、いい点、悪い点を見直して、さらにいいセンターにしていきたいというところから、相談支援センターの方も相談に訪れる方も、まだまだこの支所の中よりも、ちょっと離れた保健センターという場所がすごく適しているということを言われております。

私も前回上げましたように、あそこの保健センターの活用という点から、一番適しているんじゃないかなというふうにも思いますので、そういうところのお考えはどうでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

現場の第一線で働いている方々の意見に耳をよく傾けたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

本当に勇気を出して一歩踏み出しても、そういう公共の場であそこまで歩いていく場が本

当につらいというか、そういう意見もあるそうです。まだまだ、昔は相談に行くという、自分たちの障害を持つ家族とかなかなか行けないというのも、一般の方は何でだろうと思うかもしれません、何かじろじろ見られるようだとか、いろんな形を思うわけですね。だから、プライバシーとして守ってあげるためにも、少しそういう保健センター的なところがいいんじゃないかという声もありますし、利用者からもそういう声が届いておりますので、前向きに取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

それでは、最後になりますが、ユニバーサルデザイン計画についてお尋ねいたします。

市長の具約にもありましたが、21年度をめどに、予算としては10,000千円ということで計画をしていきたいということですが、今のユニバーサルデザイン計画の進捗状況をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思います。

ユニバーサルデザイン計画の進捗状況ということでございますけれども、総合計画におきまして、すべての人が自由に活動をし、安全・安心で快適な暮らしができるようなまちづくりということで、基本理念といたしましては、UDのまちづくりを目指すことにしているところでございます。本年4月には企画課にUD係を設置いたしまして、市報へのUDの特集の掲載、あるいは県内初めてということになりますけれども、UDのホームページの立ち上げ等を行って推進をしているところでございます。

UD計画の策定でございますけれども、本年11月に、UDに関する団体の代表者や公募による市民の方で組織をしたUD推進協議会を立ち上げております。この中で、策定に向けた準備に現在取りかかっているところでございます。本年度内には、UD推進会議を開催いたしまして、策定の予定をしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

メンバーとしては、実際に障害のある方とか、一般公募という形でメンバーがなされているんですよね。

そういう中で、10,000千円の予定になっておりますが、やはりハード部分というところでは、本当に金額もかかるのですが、どういうところをまずユニバーサルデザインとして、ハード部分ができていくのかお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

推進計画の策定に当たってでございますけれども、まず、基本的には佐賀県が策定をいたしておりますUD計画の実施計画を参考にさせていただきたいというふうに思っています。その中で、推進協議会において、各分野における施策等を協議していただきて、市としての重点的に取り組む内容を決定していきたいというふうに考えてあります。

取り組みといたしましては、武雄のUDのロゴマークを公募によって選定し、UDに積極的に取り組む施設、あるいはUD商品にあるステッカーとして利用をしていきたいというふうに思っています。このロゴマークにつきましては、11月21日の協議会において決定をしてあります。UDのロゴマークですけれども、一応この分で（ロゴマークを示す）決定をいたしているところでございます。

あとに、単に施設のバリアフリー化だということじゃなくて、ハード部分だけではなく、観光客へのおもてなし等も含めた心のUDの啓発に努めていきたいというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的には、今度一番目新しいのは、新武雄温泉駅についてはUDになるということで、まちづくり部からも、私からも強い働きかけをしております。

このように、民間の施設であっても、あるいは道路の改修であっても、できることから、そのユニバーサルデザイン、バリアフリーを意識した改修、あるいは新築を進めていこうというふうに考えております。

それと、もう1つの手立てとしては、先ほど部長答弁の中でマークを皆さん方にごらんになつていただきましたけれども、1つ考えられるのは、これ県とも調整が要りますけれども、そういったところに積極的にかかわっているところには、認定をするというのが1つあるのかなと。例えば、これは公だけでやってもなかなか進まないわけですね。利用者が使われるの、基本的に例えば、温泉の施設であつたりとか、旅館であつたりとすると、それをきちんとやっぱり我々が認証をするということで、さらに、あの認証が欲しいからじゃあこういうふうに改善しましょうとかいうふうに、流れをちょっとつくりたいなというふうに思っております。

そういうことで、まだ緒についたばかりでありますけれども、そういうふうにできるところからきちんとやっていくということを、きちんと進めていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

ステッカーとかロゴマークとかができるいくというのは、人の目にも写って意識をされていく部分でありますね。そして、本当に心のバリアフリーというか、そういう形で推進されていくと思うんですが、一つ気になるのは、県に倣ってというか、ステッカーとか、そういうのは県に倣っていいんですが、何が武雄市にとって一番必要なのかというところで、私はこの実行委員会で語ってほしいところだと私は思っています。駅の段差だとか、もちろん、以前同僚議員が言われましたが、こういう中央的な施設に4階までのエレベーターがないとか、そういうところいろんな点がありますし、優先順位もあるでしょうが、本当にこの武雄市にとってここを見詰め直すと、いいユニバーサルデザインになるなというところを詰めていってほしいなというふうに私は思っておりますが、いかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

県に倣ってと企画部長が申し上げたのはあれですね。全体の進行管理ということで、それは負けてはならないという意味で申し上げたというふうに私は理解しておりますので、嬉野市さんもかなりやっぱり進まれております。そういう意味では、これは、別に勝ち負けじゃありませんが、やはりこれは積極的に進めていかなければいけないというふうに考えてあります。県に倣ってというのは、何と言うんですかね、いろいろ県もお気持ちがありますので、それを十分やっぱり知恵もいただきながら進めていくということだと申し上げたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

3番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、わかりました。本当に現場に立って見直されていくというか、ユニバーサルデザインが広げられていくことを願っています。本当一部ではあるんですが、ちょっと1つの例を挙げれば、ユニバーサルデザインの中に、今少子化ですが、若いお母さんたちが、授乳中のお母さんたちが、やはり外に出たときに授乳するのに本当に困っているという、もう全然関係ない人たちには全くわからない話なんですが、そういうことも考えると、ユニバーサルデザインとしてそういう場所が与えられるとか、細かいことですか、本当にこれがいいから私たちは外に出ていけないというところを上げていただきたいなというふうに思っておりますので、いい計画になっていくことを本当期待したいと思います。

本当に樋渡市長も古川知事も、古川知事も就任されて、チャレンジドという形で障害者福祉には力を本当に積極的に注いでもらっています。本当にチャレンジドって挑戦する人たち、本当に勇気を出してチャレンジしていくという形で、みんなが頑張っているし、皆さんの支

え、理解のもとにいい社会が本当にでき上がってきているなというふうに思いますので、さらに支所とかも、共生ふれあいセンターの活用もさらにいい形になっていくことと、やはり障害のある人もない人も、すべての市民が地域社会の中で安心して自分らしく暮らせるノーマライゼーションのまちづくりをさらに進めていただきたいという要望をお伝えして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。